opusdei.org

黙想:待降節第1木曜 日

黙想のテーマ:「慣れと生ぬるさ」「砂の上に家を建てるという幻想」「祈りによって岩の上に家を築く」

慣れと生ぬるさ

砂の上に家を建てるという幻想

祈りによって岩の上に家を築く

「わたしに向かって、『主よ、主 よ』と言う者が皆、天の国に入るわ けではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである」(マタイ7・21)。今日のミサの福音書の冒頭におけるイエスの言葉は、私たちに対する神の計画が存在することを示しています。私たちはその計画は、この言葉は私たちがその計画をに、この言葉は私たちがその計画をでいます。

しかし年月が経つにつれ、その道に おいて、ある種の慣れ、単調さに陥 ることがあり、それが私たちを生ぬ るさに導くことがあります。神との 愛の物語を生きることに対する熱意 が冷めることがあります。イエスの 跡を追うという望みは消えていない が、それはより冷めたもので、希薄 になる。過去の経験だけを内的生活 の糧とし、創造性が欠如する。大き な理想は単なる夢のように思え、糾 明によって心が目覚めることは少な くなります。自分は特に罪人ではな いと感じます。聖人になりたいとい う望みはまだあるかもしれません。 しかし、それは非常に弱い願望で、 その願望の実現のために実際行動を 取ることは先送りされます。

聖ホセマリアは、このような状況に 私たちが陥る可能性を知っていたの で、先手を打って、私たちが祈りを 強化するようにと勧めます。「生温 さに陥る危険にさらされているあな たを見ると、心が痛む。身分に応じた完徳を真剣に求めていないからである。私と一緒に申し上げなさい。 生温い者にはなりたくありません。 『あなたを畏れてわたしの身はすくみます』、私の神よ、私に子としての畏れを与え、反応させてください。」 III。

今日の福音書でイエスは、自身の人生に対する神の偉大な計画を発見っていない人の行動の意味するとマッカを明確にするために、があったしいないを開くだけで行わない者は、ででいる。では、ででいるでは、川があふと、はでいるででは、ででいるが降り、川があふと、はでいるでである。である。であるという形容詞は、いくら豊かな人生を

望みそれを計画したとしても、本質的なことを考慮に入れずに、神の計画という観点から人生を構築しなら、それは全く意味がないのであることを示しています。その原因は怠り、軽率さ、怠惰かもしれません…いずれにせよ、多くの努力と対して投資されます。

このことを悟るのは、時に難しいこ とがありますが、堅固な岩、つまり 神の上に家を建てる方が、実のとこ ろそれはよりシンプルです。砂の上 に家を建てることを選択した生ぬる い人の人生は、一見より容易に見え ることがあるかもしれません。しか し自己犠牲と愛の要求を避けて生き ているにもかかわらず、実のところ 心は緊張状態にあります。半無意識 的に、その人の心には分裂が生じま す。常に損得を計算しながら、ある ことについては合意し、別のことに ついては妥協し、それらのために多

くのエネルギーを使います。頻繁に他人の目を気にし、他者と自分を比較するので、自己についての現実を穏やかな心で見つめることができません。自己犠牲は、愛の心から生まれないので、喜びではなく苦々しいものとなります。

聖性に対する願望が乏しいことに気 づいた時、イエスの心の暖かさに近 づきましょう。 聖ホセマリアは言い ます: 「頑(かたく)なだが、高貴な 心がある。 そのような 心がイエ ス・キリストの聖心の熱に近づく と、銅のように溶けて愛と償いの涙 を流す。燃え上がるのだ。逆に、生 温い人の心は泥や惨めな肉でできて いる。そしてそのような心は壊れて 崩れてしまう。塵である。なんと悲 しいことか。一緒に申し上げよう。 イエスよ、私たちが 絶対に生温くな らないようお助けください。生温さ にだけは 陥りたくありません | [2]。 イエスの愛の眼差しに励まされて、

私たちは大胆に主に言うことができます。「私の魂を再び燃え上がらせてください。私の魂が悲しみのうちに留まることを許さないでください」。主は私たちの謙虚で信頼の満ちた祈りを受け入れてくれださることでしょう。

「見いだせるうちに主を尋ね、近くにおられる主に願え」は。祈りな対話をの個人的な対話をの個人的な避けるとは、生ぬるさます。 (黙想のうちにがるとます。) このたがるがるとがである。然ことがであるとがであるととがであるととがでいれたちがであるととがでいます。 (社会の人生がもとといるようにします。

時折、私たちは自分の過ちの重みを 感じ、私たちの良い願望や理想は、 現実とはあまりにも異なるものであ ると感じることがあるかもしれませ ん。しかし、私たちが聖霊の働きか けに対して自己を開くなら、私たち の謙遜な願いは聞き入れられること を私たちは知っています。神は私た ちの望みを活性化し、私たちには不 可能だと思えたことを、私たちの内 において実現します。「くじけてし まうあなたに、とくに慰めになるこ とを繰り返し教えよう。全力を尽く す者に対して神は恩寵(恩恵)を拒 まれない。わたしたちの主は父であ る。子供が真心から、「天の御父 よ、わたしはここにいます。お助け ください | とお願いするなら、また わたしたちの母である神の御母に助 けを求めるなら……、すべてはうま くゆくだろう | 151。

この確かなな土台の上に、主は強く 堅固な大きな家を建てることができ

ます。「そこで、わたしのこれらの 言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に 自分の家を建てた賢い人に似てい る。雨が降り、川があふれ、風が吹 いてその家を襲っても、倒れなかっ た。岩を土台としていたからであ る | (マタイ7・24-25)。私たちは 信頼を持って前進することができま す。戦いにおける「慣れ」がもたら す、生ぬるさとの結託に気をつけま しょう。 困難はあるかもしれません が、本質的なものが、洪水に流され たり、風に運ばれてしまうことはあ りません。主は私たちと常に一緒に おり、私たちと共に戦っています。

聖母に助けを求めましょう。「聖母を愛すれば、その愛は息吹となり、あなたの微温という燃え止しに隠れた、熾火のような諸徳を、赤々とした炎に燃え上がらせてくれるだろう」[6]。

- [1] 聖ホセマリア、『道』、326。
- [2] 聖ホセマリア『鍛』、490番。
- [3] 待降節第1木曜日、アレルヤ唱。
- [4] 聖ホセマリア、『道』、92。
- [<u>5</u>] 聖ホセマリア、『十字架の道行き』、第10留、黙想のしおり、3。
- [6] 聖ホセマリア、『道』、492。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/ Mokusou-no-Inori-Taikou-Fushi-Dai-1-Mokuyoubi/ (2025/12/13)